

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	株式会社FUJI藤岡工場 自走式自		階数	地上4F
建設地	愛知県豊田市迫町戸尻480-16、他		構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法第22条の指定		平均居住人員	240 人
気候区分	5地域		年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	工場		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月	予定	評価の実施日	2018年4月2日
敷地面積	29,113 m ²		作成者	玉井 秀一
建築面積	1,773 m ²		確認日	2018年4月6日
延床面積	7,015 m ²		確認者	玉井 秀一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%
②建築物の取組み: #DIV/0!
③上記+②以外の: #DIV/0!
④上記+: #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">27.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部			建物全体・共用部		建物全体・共用部		建物全体・共用部	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性				3.4	0.48			-	3.4
3.1 空間のゆとり				2.6	0.31			-	
1 階高のゆとり				1.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.1未満	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			4500N/㎡以上	5.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		-	-			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.23			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.15			-	
4 通信配線の更新性				-	-			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.31			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.31			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー				-	0.40			-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-			-	-
2 自然エネルギー利用				-	-			-	-
3 設備システムの高効率化				-	-			-	-
4 効率的運用				3.0	1.00			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	-
集合住宅の評価				-	-			-	-
4.1 モニタリング				-	-			-	-
4.2 運用管理体制				-	-			-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			-	3.4
1 水資源保護				-	-			-	-
1.1 節水				-	-			-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				-	-			-	-
1 雨水利用システム導入の有無				-	-			-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				-	-			-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.74			-	3.1
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	砕石敷き・クラッシャーラン等	3.0	0.21			-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				4.0	0.25			-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	内装が乾式工法のため分別が容易、かつ設備との絡線が無い	4.0	0.25			-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.26			-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.68			-	-
1 消火剤				-	-			-	-
2 発泡剤(断熱材等)			発泡剤を用いた断熱材等の使用なし	5.0	1.00			-	-
3 冷媒				-	-			-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30			-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①		-	-			-	-
2 地域環境への配慮				2.8	0.50			-	2.8
2.1 大気汚染防止				-	-			-	-
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.67			-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.33			-	-
1 雨水排水負荷低減		独自		-	-			-	-
2 汚水処理負荷抑制				-	-			-	-
3 交通負荷抑制		独自	適切な量の駐車スペースの確保	4.0	0.50			-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.50			-	-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.50			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	-
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	-
2 振動		独自		-	-			-	-
3 悪臭				-	-			-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	-
2 砂塵の抑制				-	-			-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社FUJI藤岡工場 自走式自動車車庫

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.22	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:27.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社FUJI藤岡工場

計画上の配慮事項	
総合	外観の周囲との調和への配慮を十分に行った。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	構造部材を痛めることなく、設備の更新・修繕ができる。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に緑地帯を設けて環境配慮を行っている。
LR1 エネルギー	LED照明の採用等により、エネルギー消費量削減への配慮を行っている。
LR2 資源・マテリアル	砕石敷き(基礎・地中梁下、路盤)に再生砕石(骨材)を使用する予定である。
LR3 敷地外環境	LED照明の採用等により、ライフサイクルCO2排出量低減への配慮を行っている。
その他	—